

# 小笠原諸島の現状

(1) 小笠原諸島の概況	P1
(2) 小笠原諸島の基本データ	P2 -P5
(3) 小笠原諸島の産業に関するデータ	P6 -P13
(4) 交通や基本インフラの状況	P14-P15
(5) 小笠原諸島の生活に関する状況	P16-P17

# (1)小笠原諸島の概況(歴史的・自然的・地理的特性等)

## 沿革

- 1593年 小笠原貞頼により発見されたと伝えられる
- 1876年 国際的に日本領土と認められる(一部欧米人の帰化)
- 1944年 太平洋戦争の戦局の悪化。島民が本土に強制疎開
- 1946年 米国の軍政下に置かれる
- 1968年 日本に返還され、東京都の行政管理下に編入  
(昭和43年) (本格的に帰島開始)
- 1969年 小笠原諸島復興特別措置法公布(以後、5年ごとに期限を延長。)
- 2011年 世界自然遺産登録
- 2019年 小笠原諸島復興開発特別措置法の一部改正(2023年度(令和5年度)末まで)。延長法に基づき、小笠原諸島復興開発基本方針を策定。

## 概況

- ・人口：2,531人(2022年4月1日現在)  
[参考]：戦前ピーク：7,711人(1944年)
- ・産業
  - 〈農業〉農家戸数 54戸(2021年4月1日)  
生産高 129百万円(2020年)  
特産品 パッションフルーツ、トマト等
  - 〈漁業〉漁協組合員数 80人(父島2021年12月、母島2022年3月)  
漁獲高 652百万円(2021年)  
特産品 メカジキ、マグロ等
  - 〈観光〉観光入込数 16,469人(2021年度)  
観光客消費額 964百万円(2020年)

- ・交通手段：約6日に1便の船便(航空路無し)
- ・国立公園面積割合：79.9%



おがさわら丸

## 位置



- 東京の南約1,000kmに位置(船便おがさわら丸で片道約24時間)
- 父島列島をはじめとする約30の島
- 我が国の排他的経済水域の約3割を確保



〈小笠原諸島周辺海域における海上保安体制の強化〉  
周辺海域における業務執行体制を強化するため、地元の要望も踏まえ、巡視船の配備、必要な施設の整備等を実施

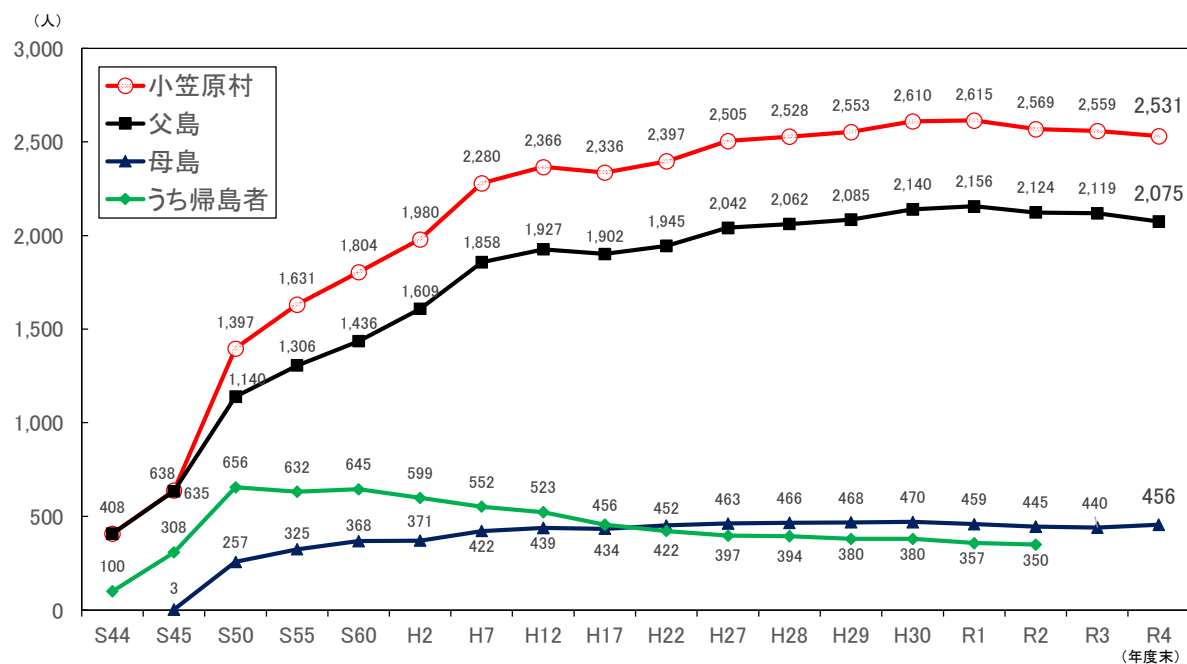
巡視船みかづき(令和3年2月就航)



全長 43.0メートル、総トン数 200トン、速力 25ノット以上

## (2)小笠原諸島の基本データ(人口の推移)

- ・日本復帰当初から平成7年度まで大幅に増加。その後は微増傾向にあるが、近年は横ばいで推移。
- ・一貫して自然増加である一方、近年は社会動態の減少が続いている。



※帰島者:

①昭和19年3月31日に小笠原諸島に住所を有していた者、②①の父母、配偶者並びに子及び孫並びにこれらの配偶者のいずれかに該当する者で、永住の目的をもって小笠原諸島へ移住する者(小笠原諸島振興開発特別措置法施行令第3条)

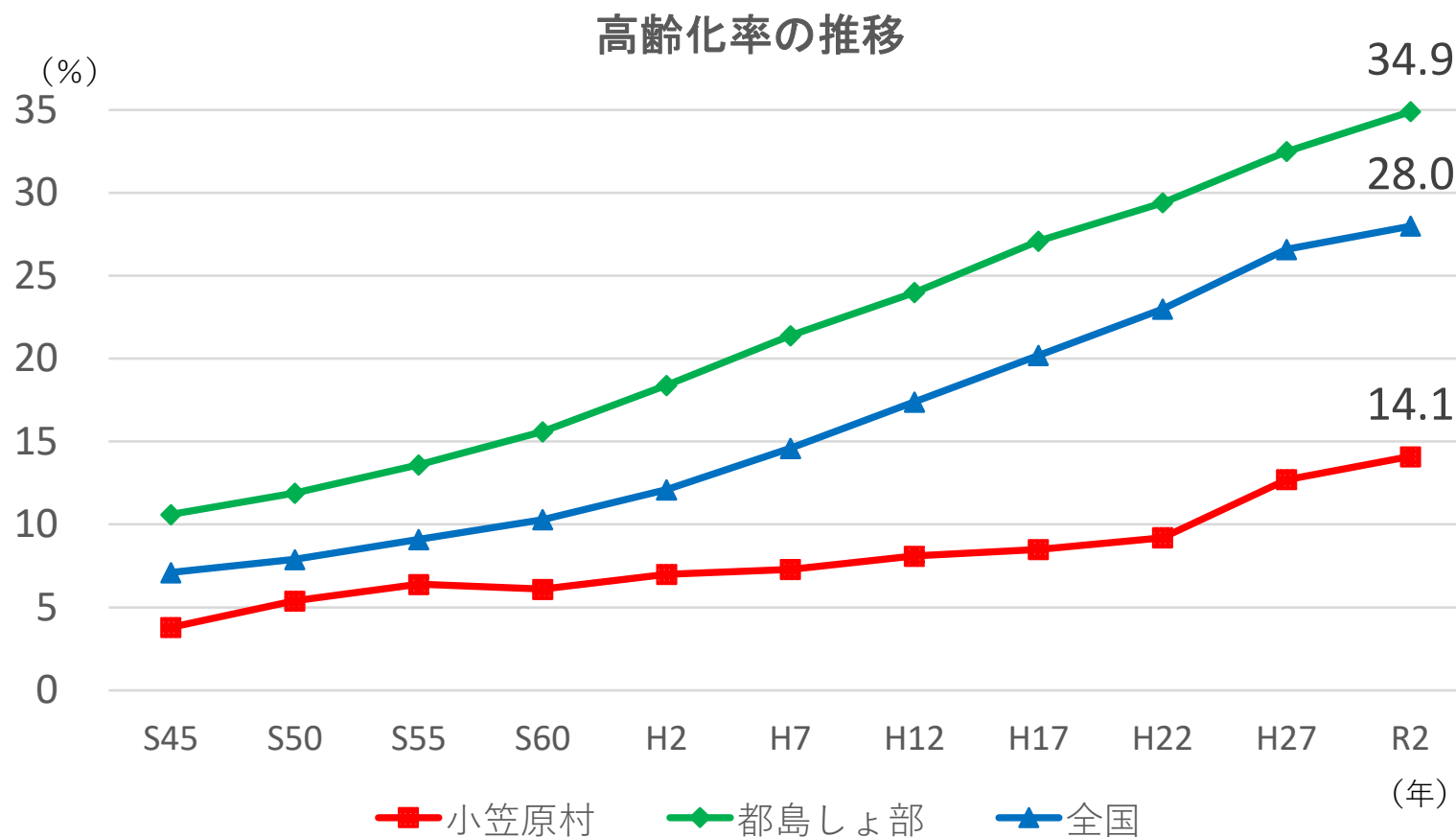
区分	S43.6 ~ S47.12	S48.1 ~ S52.12	S53.1 ~ S57.12	S58.1 ~ S62.12	S63.1 ~ H4.12	H5.1 ~ H9.12	H10.1 ~ H14.12	H15.1 ~ H19.12	H20.1 ~ H24.12	H25.1 ~ H29.12	H30.1 ~ H30.12	H31.1 ~ R1.12	R2.1 ~ R2.12	R3.1 ~ R3.12
自然増減	4	79	110	119	118	96	94	103	121	69	16	13	14	6
社会増減	818	381	115	35	114	▲ 37	▲ 11	▲ 134	40	▲ 49	▲ 34	▲ 8	▲ 46	▲ 36
その他	178	69	9	▲ 17	19	9	▲ 8	39	32	11	1	2	5	▲ 4

※その他: 実態調査、帰化・国籍離脱等による職権記載・消除者数を記載

出典: 住民基本台帳(各年度末現在)、管内概要(東京都)、小笠原諸島振興開発事業の成果

## (2)小笠原諸島の基本データ(高齢化率)

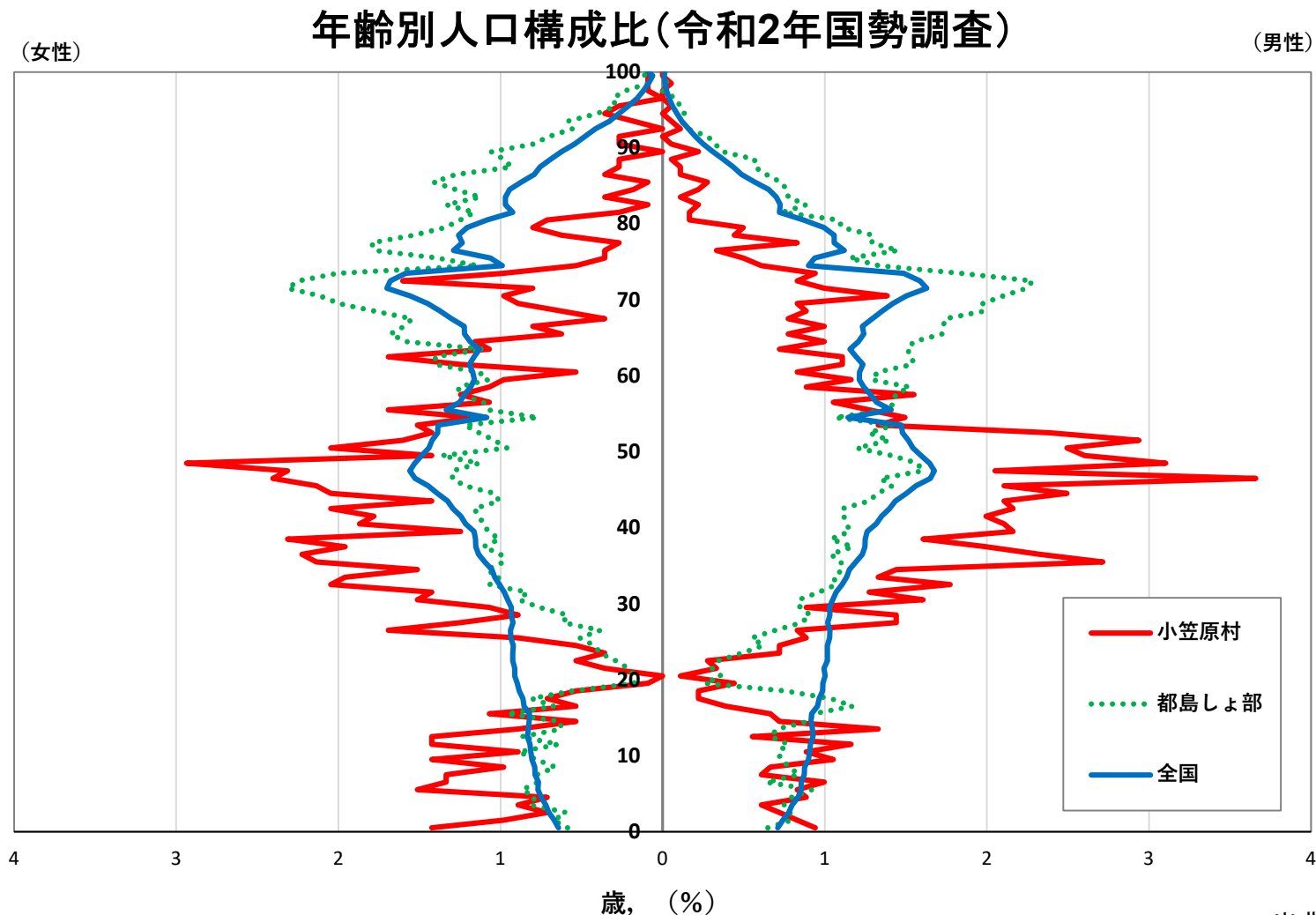
- ・小笠原村の高齢化の進行は極めて緩やかである。
- ・令和2年の高齢化率(65歳以上人口の割合)は14.1%と、全国28.0%に比べ低い状況にある。



出典:国勢調査

## (2)小笠原諸島の基本データ(年齢構成)

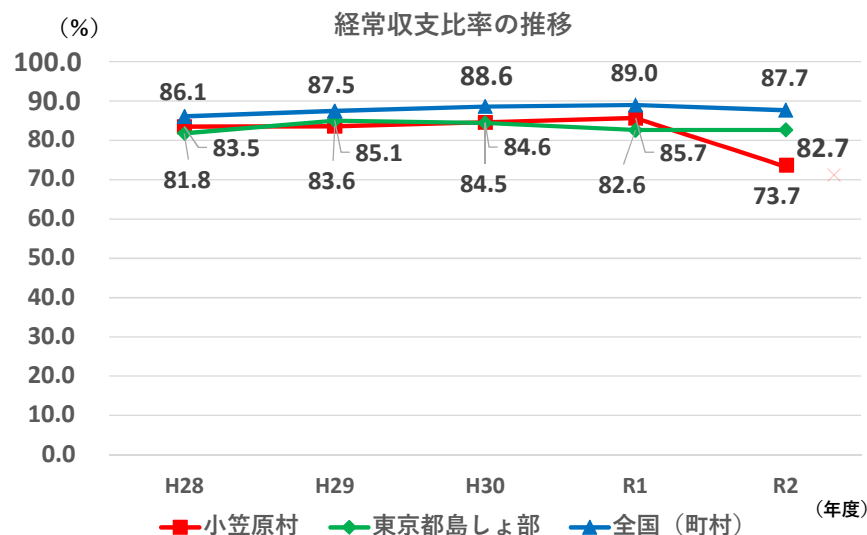
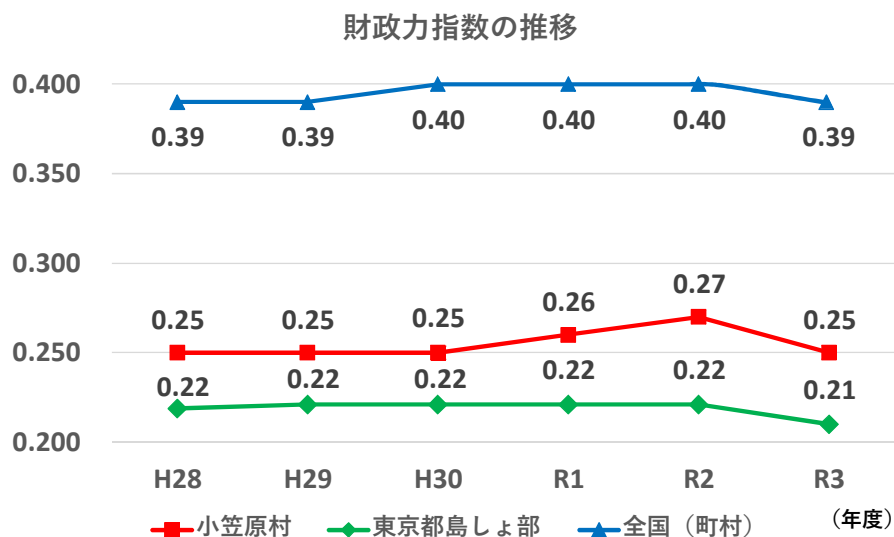
- ・小笠原村の人口は、年少人口と生産年齢人口の割合が高く、老年人口割合は低くなっている。
- ・20歳前後の人口割合は、高等学校卒業後に本土の大学へ進学することなどにより低くなっている。



出典:国勢調査

## (2)小笠原諸島の基本データ(小笠原村の主な財政指標)

- ・財政力指数は、東京都島しょ部を上回るものの、全国(町村)の水準に比べ、低い。
- ・経常収支比率は、全国(町村)及び東京都島しょ部の水準に比べ、低い。



出典:管内概要および東京都HP掲載データを加工して作成  
全国(町村)は市町村別決算状況調(総務省)より

### 【財政力指数】

地方公共団体の財政力を示す指数で、基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の過去3年間の平均値。財政力指数が高いほど、普通交付税算定上の留保財源が大きいことになり、財源に余裕があるといえる。

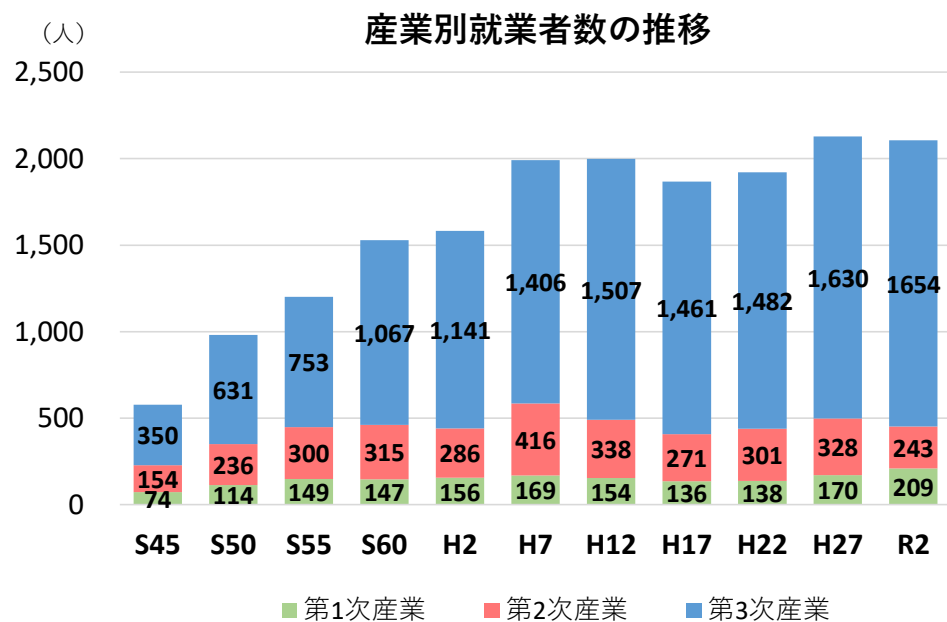
### 【経常収支比率】

地方税、普通交付税のように用途が特定されておらず、毎年度経常的に収入される一般財源(経常一般財源)のうち、人件費、扶助費、公債費のように毎年度経常的に支出される経費(経常的経費)に充当されたものが占める割合。

(総務省HPより)

# (3)小笠原諸島の産業に関するデータ(産業別就業者数)

- ・小笠原村の産業別就業者数は、産業構造の変化により第3次産業が大幅に増加。
- ・近年は第1次産業が微増。
- ・就業者数全体に占める公務の割合が27.4%と高い。

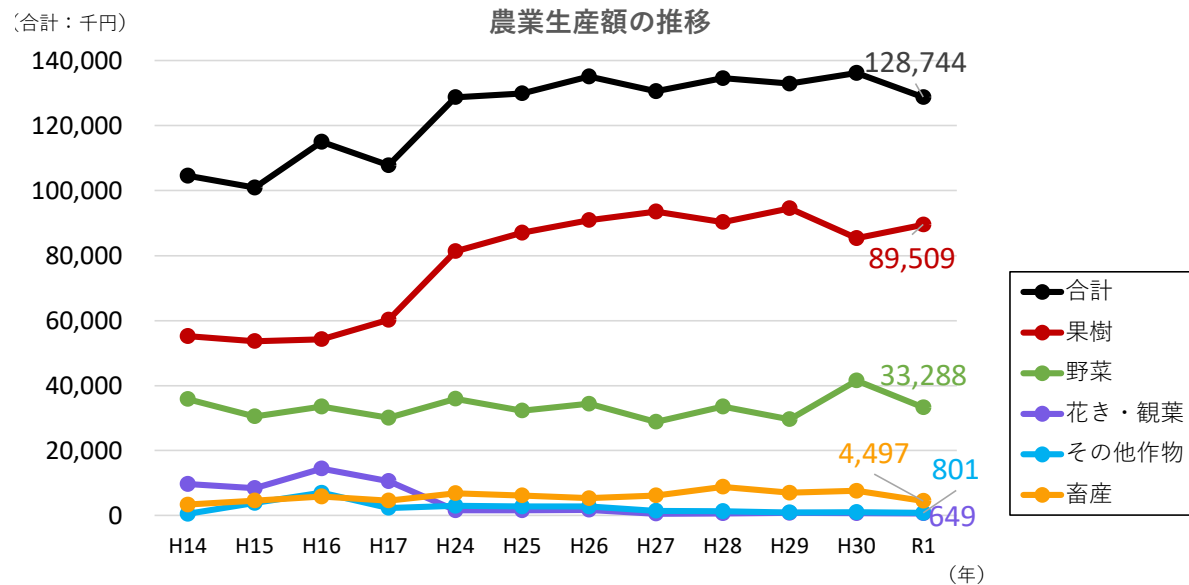


出典:国勢調査

区分	小笠原村		東京都島しょ部		全国	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
総数	2,106	100	13,817	100	57,643,225	100
第3次産業	1,654	78.6	10,331	74.8	42,420,984	73.6
電気・ガス・熱供給・水道業	22	1.0	113	0.8	275,595	0.5
情報通信業	6	0.3	66	0.5	1,955,619	3.4
運輸業	50	2.4	552	4.0	3,117,623	5.4
卸売・小売業	120	5.7	1,417	10.3	8,805,576	15.3
金融・保険業	6	0.3	117	0.8	1,355,161	2.4
不動産業	11	0.5	112	0.8	1,253,905	2.2
学術研究、専門・技術サービス業	74	3.5	241	1.7	2,103,074	3.6
飲食店、宿泊業	258	12.3	1,460	10.6	3,095,434	5.4
生活関連サービス業、娯楽業	101	4.8	448	3.3	1,979,446	3.4
教育、学習支援業	96	4.6	941	6.8	2,829,694	4.9
医療、福祉	151	7.2	1,515	11.0	7,633,170	13.2
複合サービス事業	49	2.3	342	2.5	441,618	0.8
サービス業	128	6.1	1,112	8.0	3,801,218	6.6
公務(他に分類されないもの)	578	27.4	1,734	12.5	2,032,199	3.5
分類不能の産業	4	0.2	161	1.2	1,741,652	3.0
第2次産業	243	11.5	2,240	16.2	13,259,479	23.0
工業	0	0	0	0	18,891	0.0
建設業	230	10.9	1,919	13.9	4,184,052	7.3
製造業	13	0.6	321	2.3	9,056,536	15.7
第1次産業	209	9.9	1,246	9.0	1,962,762	3.4
農業	111	5.3	785	5.7	1,769,959	3.1
林業	11	0.5	30	0.2	60,738	0.1
漁業	87	4.1	431	3.1	132,065	0.2

### (3)小笠原諸島の産業に関するデータ(主要作物の農業生産額)

- ・近年は果樹の生産額が好調に推移。
- ・令和元年は、生産額の約5割をパッションフルーツが占め、次いでトマト・ミニトマト、レモン、マンゴーの4品目で全体の約8割を占めている。



出典: 国勢調査

主要品目の生産販売状況 (令和元年)

	生産額 (千円)	割合
パッションフルーツ	60,204	46.8%
トマト・ミニトマト	22,622	17.6%
レモン	11,562	9.0%
マンゴー	7,230	5.6%
コーヒー	4,326	3.4%
オクラ	1,643	1.3%
シカクマメ	487	0.4%
その他	20,670	16.1%
合計	128,744	100.0%

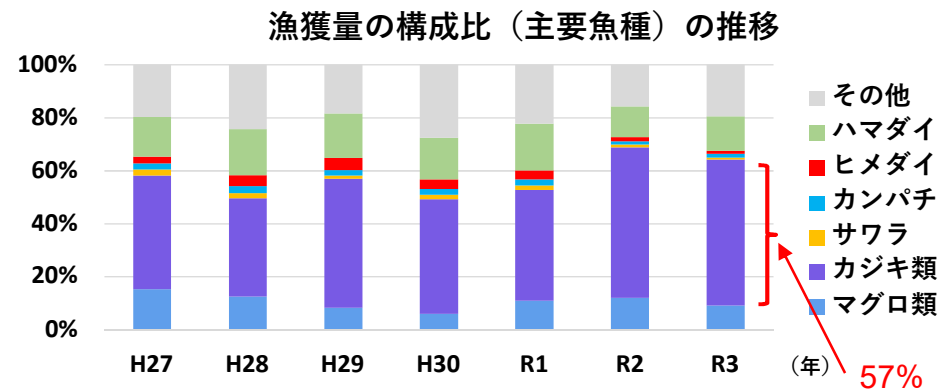
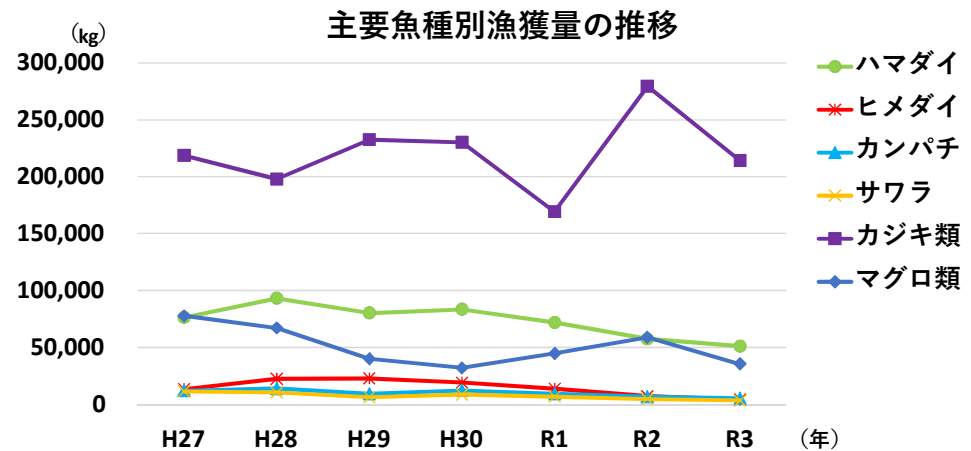
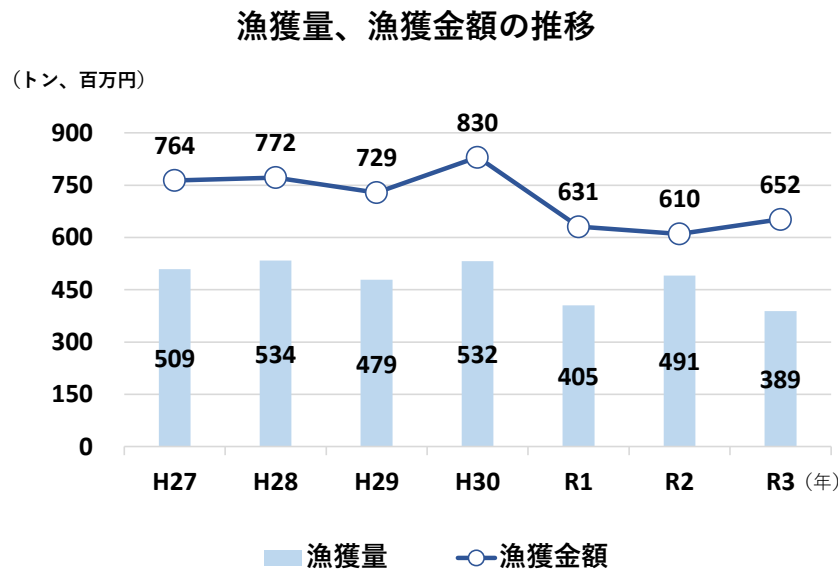
79%

出典: 管内概要



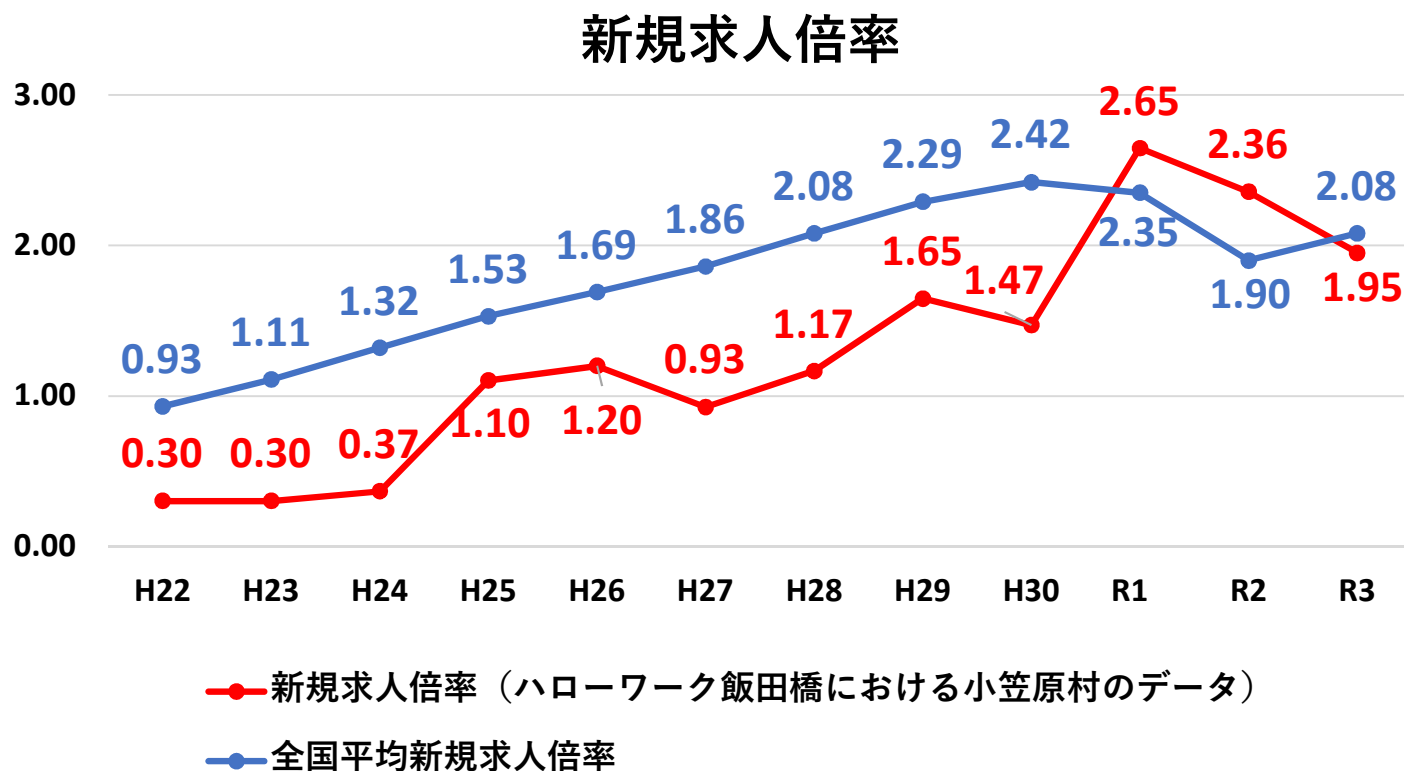
### (3)小笠原諸島の産業に関するデータ(漁獲量、漁獲金額)

- ・漁獲量の約6割をカジキ類が占め、次いでマグロ、ハマダイで全体の約8割を占めている。
- ・漁獲量はカジキ類が不漁だった令和元年を除き、500t前後で推移している。
- ・令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、カンパチやタイ類の単価下落により、漁獲金額が減少した。



### (3)小笠原諸島の産業に関するデータ(雇用に関する状況)

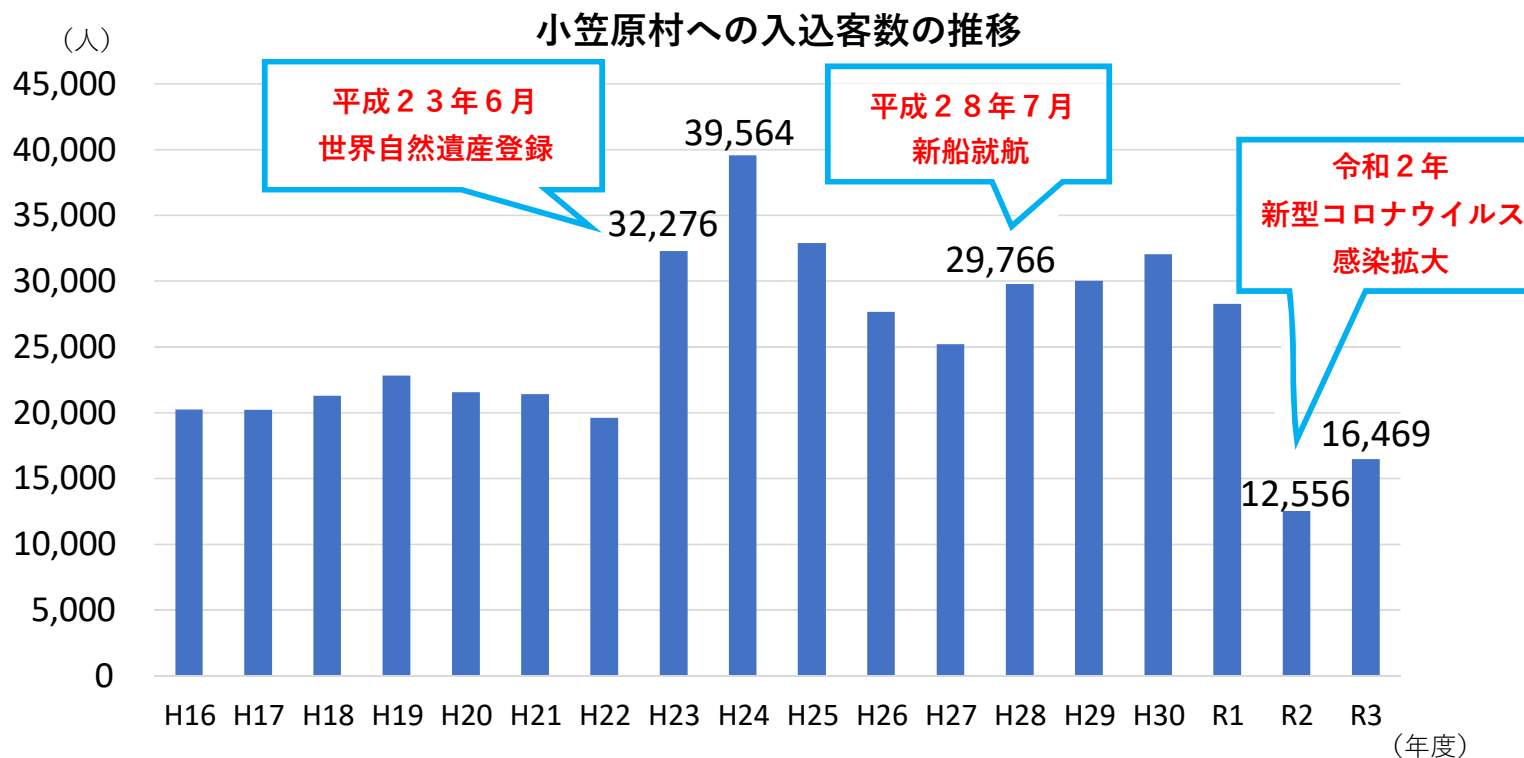
・小笠原村における新規求人倍率は平成30年まで全国平均を大きく下回っていたものの、令和元年・令和2年は全国平均を上回り、令和3年はほぼ同水準となっている。



出典:業務報告(小笠原総合事務所)

### (3)小笠原諸島の産業に関するデータ(入込客数の推移)

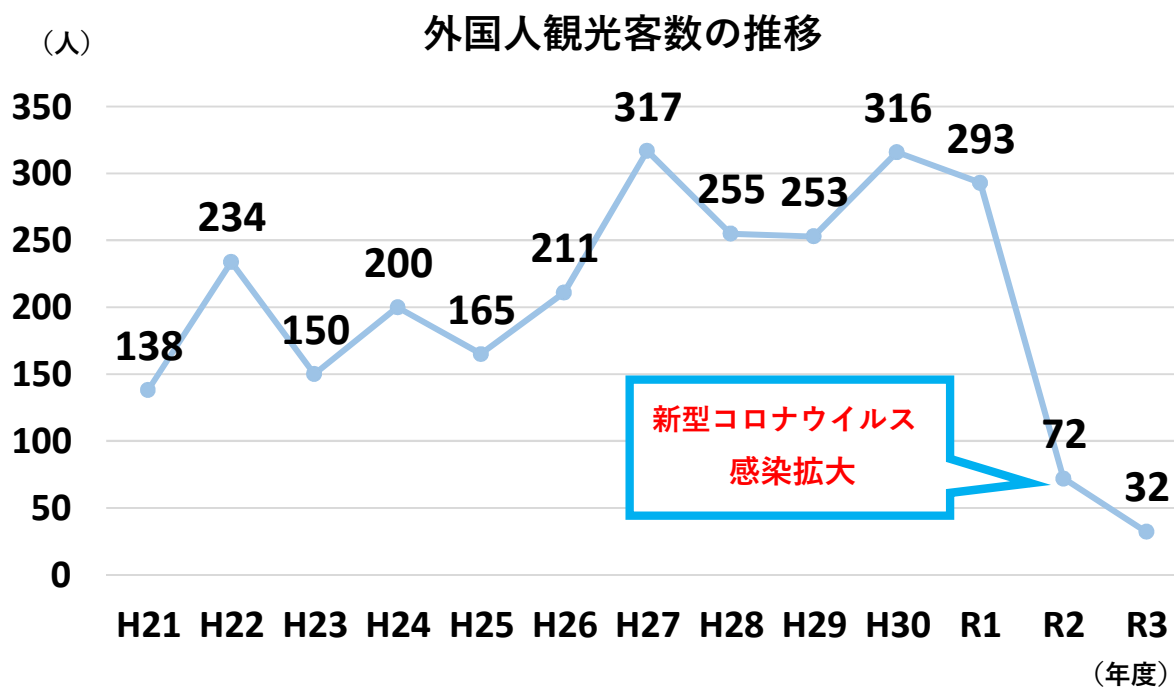
・世界自然遺産登録の効果により平成23年度から増加した観光客は、一時、落ち着きを見せた後、平成28年の新船就航(旅客定員768人→894人)により再び増加に転じていたが、令和2年以降新型コロナウイルス感染拡大の影響により減少。



出典:小笠原村調べ

### (3)小笠原諸島の産業に関するデータ(外国人観光客数)

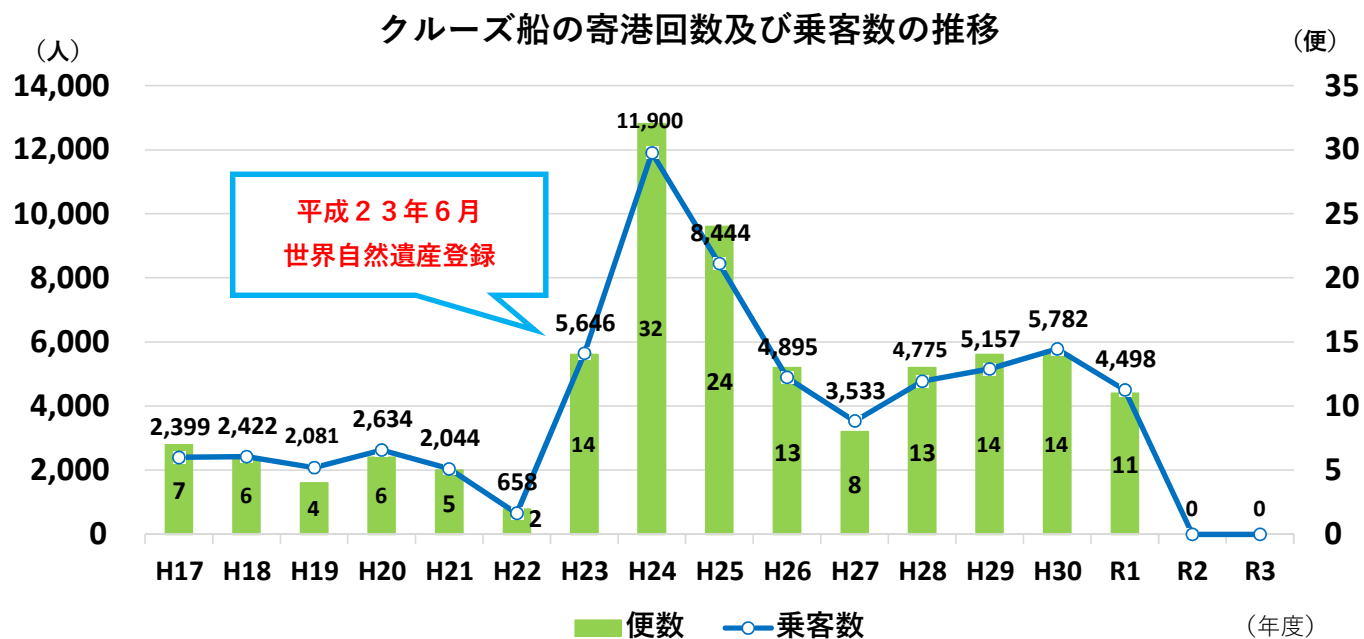
・外国人観光客数は増加傾向にあったが、令和2年以降新型コロナウイルス感染拡大の影響により大きく減少。



出典:小笠原村調べ

### (3)小笠原諸島の産業に関するデータ(クルーズ船の寄港回数等)

- ・クルーズ船の寄港回数は、平成23年の世界自然遺産登録の効果により急激に増加。一時落ち着きを見せた後、近年は再び増加傾向にあった。
- ・令和2年と令和3年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により寄港実績なし。

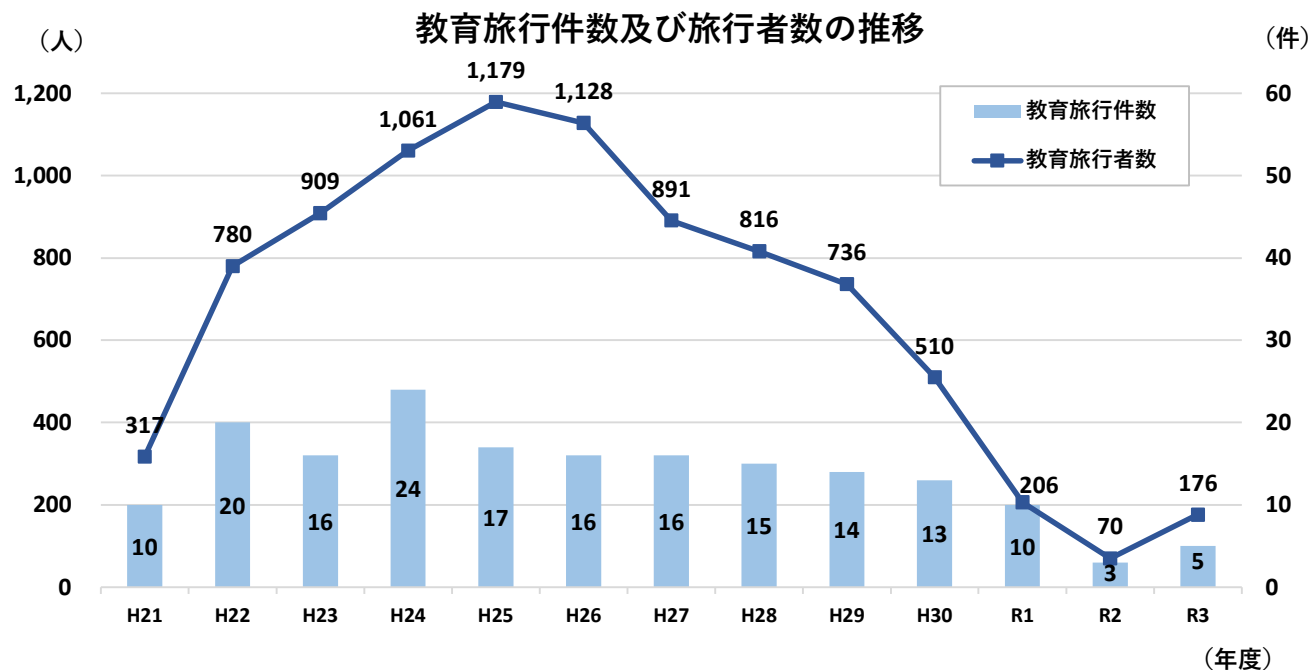


※R2、R3はコロナ禍の影響により実績なし

出典:小笠原村調べ

### (3)小笠原諸島の産業に関するデータ(教育旅行者数の推移)

・教育旅行者数は平成25年の1,179人をピークに減少傾向にあったものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響が和らいだ令和3年に回復の兆しを見せている。



出典:小笠原村調べ

## (4) 交通や基本インフラの状況(航路)

本土から小笠原諸島への交通アクセスは、航路に限定されている。

- ・東京(竹芝)と父島(二見港)の間は、片道約24時間、週に約1便の「おがさわら丸(貨客船)」が運航。
- ・父島(二見港)と母島(沖港)の間は、片道約2時間、1日に1便程度の「ははじま丸(貨客船)」が運航。
- ・建築資材などの重量物や危険物、産業廃棄物の運搬を行う「共勝丸(貨物船)」が、東京(月島)～父島(二見港)～母島(沖港)の間を、月に2～3便程度、不定期で運航。

### ● おがさわら丸(本土～父島航路)



おがさわら丸(H28年7月就航)  
小笠原海運株式会社 提供

総トン数	11,035トン
旅客定員	894名
全長	150m
型幅	20.1m
航海速力	23.8ノット
航海時間	24時間

### ● ははじま丸(父島～母島航路)



ははじま丸(H28年7月就航)  
伊豆群島開発株式会社 提供

総トン数	499トン
旅客定員	200名
全長	65.2m
航海速力	16.5ノット
航海時間	2時間

### ● 共勝丸(本土～父島～母島航路)



共勝丸(H31年1月就航)  
株式会社共勝丸ホームページより

総トン数	325トン
全長	64.64m
航海速力	14.0ノット



## (4) 交通や基本インフラの状況(主要インフラの整備率)

- ・主要インフラの整備率は、各種公共事業の実施により高い水準である。
- ・村道の道路改良率については全国に比べて低い水準である。

### 主要インフラの整備率の推移

区分	水道普及率				水洗化人口率				汚水処理人口普及率			
	H20年度	H25年度	H30年度	R3年度	H20年度	H25年度	H30年度	R3年度	H20年度	H25年度	H30年度	R3年度
小笠原村	99.1(父) 99.7(母)	99.3(父) 100.0(母)	99.9(父) 99.1(母)	99.9(父) 99.3(母)	100.0(父) 100.0(母)	100.0(父) 100.0(母)	100.0(父) 100.0(母)	100.0(父) 100.0(母)	99.7	99.8	99.8	99.9
全国	97.5	97.7	98.0	98.1	90.7	93.5	—	—	84.4	88.9	91.4	—

区分	国・都道府県道改良率(幅員5.5m以上)				市町村道改良率(幅員5.5m以上)			
	H20年	H25年	H30年	R3年	H20年	H25年	H30年	R3年
小笠原村	98.4	98.4	98.4	98.4	4.8	12.9	12.9	12.9
全国	75.0	76.5	77.4	—	17.5	18.2	19.6	—

出典：東京都、小笠原村調べ



## (5) 小笠原諸島の生活に関する状況(医療の状況)

- ・常設診療科目が限られ、専門診療は本土の医療機関から医師を招へいし、年に数回のみ実施。
- ・島内では出産ができないため、妊娠8ヶ月の時点で内地出産のため本土への移動と長期滞在を余儀なくされている。

### ○父島・母島それぞれに村営診療所

- ・住民、観光客のほか、南方域で操業する他県船、作業船、外国船の患者が救急で受診するケースもある。



小笠原村診療所(父島)  
(平成22年5月建替え)



小笠原村母島診療所  
(平成6年4月建替え)

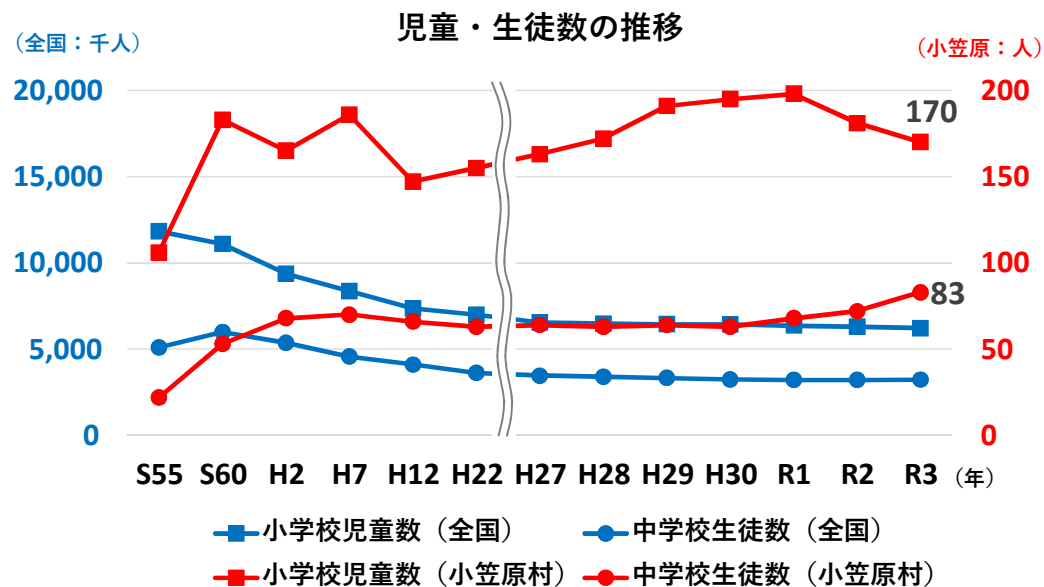
名称	父島	母島
	小笠原村診療所	小笠原村母島診療所
施設	鉄筋コンクリート造2階建て 延床面積 2268.96㎡ 診察室 3室(医科2、歯科1) 病床数 9室9床	鉄筋コンクリート造2階建て 延床面積 743.3㎡ 診察室 2室(医科、歯科各1) 病床数 2室4床
スタッフ	[医科]医師 3名 看護師 9名、助産師 1名 薬剤師 1名、X線技師 1名 理学療法士 1名 臨床検査技師 1名 栄養士 1名、調理師 3名 [歯科]医師、技工士、衛生士 各1名	[医科]医師 1名 看護師 3名  [歯科]医師、衛生士 各1名
常設診療科目	内科、外科、歯科	内科、外科、歯科
専門診療科目 (年1-2回)	小児科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、精神科、産婦人科(年6回)	小児科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、精神科、産婦人科(年6回)
診療実績 (令和2年度)	[医科] 年間外来患者数 8,525人 1日平均患者数 35.1人 年間入院患者数 58人 年間入院実日数 128日 [歯科] 年間外来患者数 1,357人 1日平均患者数 5.6人	[医科] 年間外来患者数 2758人 1日平均患者数 11.0人 年間入院患者数 10人 年間入院実日数 10日 [歯科] 年間外来患者数 1,531人 1日平均患者数 6.0人

### ○急患搬送

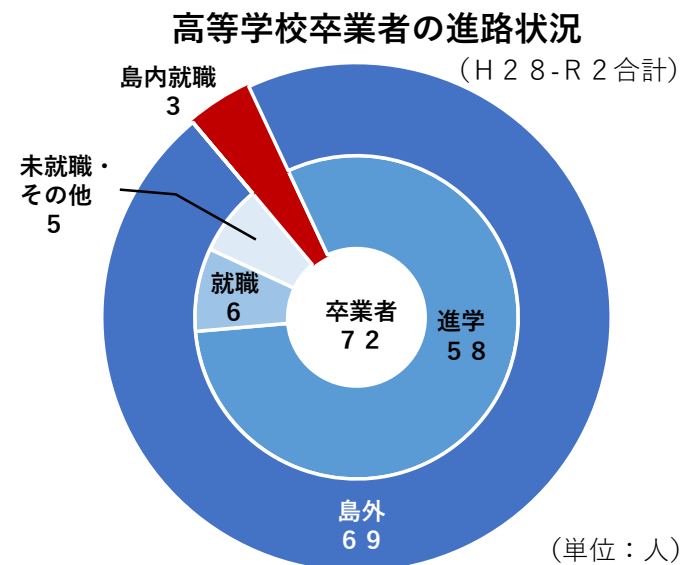
- ・海上自衛隊、海上保安庁の協力により、航空機を利用して本土に搬送
- ・令和3年度実績:28件(29人)、病院収容まで平均9時間10分  
(出典:小笠原村調べ)

## (5) 小笠原諸島の生活に関する状況(教育の状況)

- ・小学校及び中学校は父島・母島にそれぞれ1校ずつ、高等学校は父島に1校設置。
- ・昭和60年以降、全国的に児童数・生徒数が減少する中で、小笠原村では横ばいまたは増加傾向。
- ・高等学校卒業後は進学等により大半が島外へ転出。



出典：管内概要(東京都)、文部科学統計要覧(文部科学省)



出典：卒業生の進路状況(最近5年間)